

下関市立大学広報



海峡の英知。未来へそして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2016年11月1日 第80号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>



オープンキャンパス

オープンキャンパス実施報告

教授 西田 光一
(入試委員長)

8月6日、7日とオープンキャンパスが開催された。天候に恵まれ、2日間で総計899名が参加し、盛況だった。昨年度から始まった8月初旬の土日連続開催のオープンキャンパス開催は、参加者を多く確保するうえで一定の効果があることが見えてきたと思われる。

当日は放送部の進行により、川波学長、入試委員長、村田キャリア委員長、嶋本学友会長による全体説明に続き、各学科の説明、外枠保、水野、島田、村田、松本(貴)、山本教員による模擬講義が行われた。午後は呉、馬、サリバン教員による語学体験と吉武特任教員による地域活動の紹介に続き、柳入試副委員長による小論文対策講座が開かれた。高校生に加え、保護者の方々も熱心に受講されている様子が印象的だった。

午後は在学生による入試説明会も開かれた。男子学生が自分の体験を交え、言いよむことなく正確に本学の入試方法を高校生に語りかけるのを傍らで聞いて、私は正直、舌を巻いた。日頃、私も入試説明を担当することがあるが、教員からは、「本学の入試制度や方法はこうなっています」と話すことはできても、「私は、この入試には、こう対策しました」といった話ではできない。こういう話ができる学生が参加するところが本学の強みであり、在学生の顔が見えるオープンキャンパスを具体化するところでもある。もちろん、学生の話聞く高校生も真剣かつ楽しそうな目をしていました。

最後に、暑いなか協力していただいた教職員、在学生のみなさんにこの場をお借りしてお礼申しあげます。



オープンキャンパスに参加して

生協学生委員会委員長 国際商学科2年 城田 真優
(長崎県立対馬高等学校出身)

私たち生協学生委員会は、毎年大学が主催するオープンキャンパスに参加することで、高校生や保護者の方に大学の魅力を知ってもらい、少しでも受験や大学についての不安を解消できるような活動をしています。今年も学生向け説明会・学内ツアー・学生ブースという3つの企画を行いました。

学生向け説明会では、大学生が大学の施設や授業、大学生活について高校生の皆さんに紹介しました。学生目線での大学の説明なので、堅苦しいものではなく、高校生の皆さんにもわかりやすいものとなるように努めました。今年も多く生徒さんが参加してくださり、好評でした。学内ツアーでは、教授と実際にお話しする機会・サークル見学・大学生と一緒に喋りをしながら構内を見て回る機会を設け、高校生に大学をより身近に感じてもらうことができたと感じています。笑顔で大学生と会話する姿が見られました。学生ブースは、高校生からのお悩み相談を受ける場所として企画しました。受験での悩み、どの学科にするかの悩みなど、皆さん様々な悩みを抱えていましたが、それぞれの悩みに合った学生が個別に対応するので、最後は安心した表情をして、大学生と談笑する姿も見られました。今回のオープンキャンパスで、高校生や保護者の方の不安を少しでも解消できたと考えています。

来年から、この下関市立大学で素敵な大学生活と一緒に送れることを期待しています。



就職支援

就職状況と就職活動について

教授 村田 和博
(キャリア委員会委員長)

2015年度の本学学生の就職率は2014年度の98.4%を上回る99.1%となり、引き続き高い就職率を維持しています。業種別では、金融が全体の34.0%ともっとも高く、次いで卸・小売が18.8%、メーカーが10.5%となりました。本学は金融機関へ就職する学生が多いという特徴があります。

本学キャリアセンターでは、多様な資格講座の開講、体系的なキャリア教育、就職ガイダンスなど、きめ細かな就活支援を行っています。また、国内だけでなく、海外(シンガポール、青島、釜山)でもインターンシップを実施しています。さらに、昨年度からCOC+事業が動き始めました。4月から小倉駅に隣接するアミュプラザ小倉西館8階にある「北九州・下関まなびとびあ」において、「しごとZINE」、「JOBアイデアソン」、「就活ワークカフェ」が開催されています。学生がこうした就職支援活動を十分に活用することを願っています。

もうすぐ3年生の就職活動が始まります。就職活動のスケジュールの確認、自己分析、業界分析、短期のインターンシップへの参加など、今からできることに少しずつ取り組んでほしいと思います。

株式会社中国新聞社に内定

国際商学科4年 新谷 佳那子
(広島県立祇園北高等学校出身)



私は地元である広島県で就職したいという思いがあったため、広島県を拠点に就職活動を行いました。3年の夏からインターンシップや広島での就活のイベントなどに積極的に参加し、多くの企業と接点をもつようしました。このことで、様々な業界について研究でき、視野を広げることができたと思います。また、早いうちからこのようなイベントに参加することによって、就職活動の場に慣れることもできたと思います。このおかげで本格的に就職活動が開始された3月には、説明会の場で自信をもって企業の方に質問をすることができるようになりました。

また、私は選考を進めていく中で企業の志望順位が変わっていくことも多くあったため、初めから企業を絞りすぎず、少しでも興味がある企業の選考にはチャレンジすべきであると感じました。エントリーシートや面接が重なる時期は大変ですが、なにがきっかけで考えが変わるかわからないので、忙しさを理由に諦めるのはもったいないと思います。迷った時は積極的にチャレンジすることをおすすめします。

就職活動中は辛いことや悩むこともあると思いますが、納得して終われるよう最後まで頑張ってください。応援しています。

フマキラー株式会社に内定

経済学科4年 末本 健二
(広島県立広島高等学校出身)



私が就職活動する上で大切にすることは、とにかく様々な業界や企業を説明会を通して知ることでした。就職活動は自分を見つめなおす機会であるだけでなく、様々な企業を訪問してもらえる機会でもあります。就活に本腰を入れるまでは金融系の仕事を中心に探そうと考えていましたが、いざ就活サイトが解禁されて企業について調べてみると知らないことがたくさんあり、他の業界について知りもせず絞ってしまっていたのかと思い、日程が合い次第、様々な企業の説明会に参加しました。様々な説明会に参加することによって自分の興味を見つめなおすことで、志望動機や就職活動における軸をより強固にすることが出来ました。これから就活する皆さんも、多くの企業を訪問するいい機会なので、気になった企業の説明会には積極的に参加して、視野を広げていくべきだと思います。

就職活動は今後も日程が変化し戸惑うこともあると思いますが、自分の人生に関わる大事なことです。周りに流されたり、人と比べて焦ったりするのではなく、自分のペースで進めて後悔しないよう頑張らしましょう。

ニプロ株式会社に内定

公共マネジメント学科4年 坂口 龍成
(山口県立豊浦高等学校出身)



将来の仕事について全く無関心で、在学中に所属していた実業団のソフトボールチームの会社で働けばいいと考えていたため、就職活動開始時には全く何もしていませんでした。しかし、社会人と「仕事」の話をしたことがきっかけとなり、「働くこと」について真剣に考えるようになりました。そこから本当に自分がやりたい仕事を探し始めました。スタートも遅く、就職活動についての知識も無かったため、キャリアセンターに相談に行き、就職活動について一から教えてもらい、就職活動をスタートさせました。

始めは落ち続けとても辛かったのですが、最後まで諦めずに続け、自分がやりたいと思う仕事ができる会社で内定をもらうことが出来ました。

就職活動で大切なことは「根気」であると思います。活動中、様々な困難があると思いますが、諦めずに粘り強く行うことで、思わぬところからヒントを見つけたり、チャンスが訪れたりします。自分ひとりで抱え込まず、周りの人に相談して、最後まで諦めずに行い、納得できる就職活動にしてください。応援しています!

就職支援

多様化するインターンシップ

准教授 橘 誠
(キャリア委員会副委員長)

昨年に続いて就職活動のスケジュールが変更され、2017年の卒業予定者の選考活動は昨年より2ヵ月早い6月1日から行われるようになりました。民間企業の新卒採用予定者数も昨年度より増える見込みで、就職状況は売り手市場と言えるでしょう。このような状況下、インターンシップを開催する企業の数も増加する傾向にあり、企業としてもインターンシップを通して会社に合う優秀な学生の獲得を図っております。

本学でも大学主催のインターンシップに多数の学生が参加している他、今年度は中国(青島)へ6名、シンガポールへ10名、韓国(釜山)へ3名の学生を海外のインターンシップに派遣しました。その他にも、学生自らが就職情報サイトを利用して、夏休みのみならず、1月や2月に開催されたインターンシップに参加しています。また、企業が開催するインターンシップも講座形式のものが現れるなど、その開催時期や形式は年々多様化しております。

本学キャリアセンターは、このように多様化するインターンシップにも柔軟に対応していき、学生が希望する企業への就職を支援していきたいと考えております。

株式会社デンソーセールスでのインターンシップ

国際商学科3年 里見 亜夢
(兵庫県立伊丹北高等学校出身)



夏季休暇の5日間、私はデンソーセールス九州支社のインターンシップに参加しました。私自身、これまでアルバイト活動に積極的でなく、実際に社会人と触れ合う機会もあまりなかった為、就職活動に大きな不安を抱いていました。そして、B to Bの販売業務とはどのようなことをしているのかという興味と、何より将来実社会で働く時までには、私はどのようなスキルを身につけていなければならないのか、私自身を知るといふ思いを胸にこのインターンシップに参加しました。

デンソーセールスというと、デンソーの車部品を販売するというイメージしか持っていませんでしたが、住宅設備やオフィス用品なども扱っており、私はこれまで一消費者として商品に関わるものがなかった為、どれほど多くの企業が、それぞれの役割を持って日々業務に取り組んでいるのか、そのことを知る貴重な経験にもなりました。なにより私が驚いたのは、社員の一人一人が非常に充実して働いている様子が見えた時です。その経験は私のこれまでの「働く」という価値観を大きく変え、今後の就職活動へ一歩踏み出す勇気を私に与えてくれました。

株式会社十八銀行でのインターンシップ

経済学科3年 石山 克樹
(長崎県立長崎東高等学校出身)



この度、私は株式会社十八銀行のインターンシップに5日間参加させていただきました。私は、将来の就職先として金融業界を考えており、なかでも銀行に対して興味がありましたので、研修先として銀行を選択しました。

今回の体験で、銀行がどのように利益を生み出しているのか、地方の銀行としての役割はどのようなものかなど、あらゆることを詳しく学ぶことができました。さらに、深く学ぶにつれて、銀行はお金という媒体を通じて人々の生活や地域の発展に大いに貢献しているのだと知り、将来の職業として銀行員を選択したいと思いました。

また、今回インターンシップに参加し、様々な場面で自分に足りない所や未熟な点が浮き彫りになりました。就職活動を前に、自分の弱みを知ることができたことは良い機会になったと思います。短い期間ではありましたが、実際に企業の中に身を置いて行員の方々と接することで、ビジネスマナーを学ぶこともでき、私自身大きく成長することができたと思います。就職活動を本格的に意識する契機になりましたし、非常に価値のある経験となりました。

JTB Pte Ltd シンガポール支店でのインターンシップ

公共マネジメント学科3年 大森 結衣
(山口県立防府高等学校出身)



私が国際インターンシップに参加した目的は、旅行業界の海外支店での仕事の全体像を理解し、実際に海外で働いている方と同じ環境に身を置くことで、自分自身の視野を広げるとともに、多くのことを吸収し、学ぶことでした。

今回私は、業界最大手のJTBのインターンシップに参加しました。そこでは、カウンター業務だけではなく多様な仕事内容を知ることができました。旅行に関するイベントにも数多く同行させていただき、実際にその場でしか味わえない経験や感動があり、とても貴重な体験をさせていただきました。また、旅行プランや各報告書作成の際には、仕事の緻密さ、正確さが常に求められ、徹底された仕事の質の高さを感じることができました。

今回のインターンシップでは、オフィスの方々はもちろん、様々な企業の方とお話する機会がありました。海外支店としての事業内容を始め、海外で働く上でのやりがいや苦労など、多くのことを学ぶことができ、自分自身の物事の捉え方が変わったと感じます。今回のこの貴重な経験を今後の自分の将来に繋げていきたいと思っております。

国際交流

一言で表現するなら、「ドイツでよかった！」

国際商学科4年 橋本 忠明
(近畿大学附属和歌山高等学校出身)

他人とは違うことをしたいという強い思いでドイツへ留学した1年間は、大きな変化と成長に繋がり、十分に価値のある経験だったと思います。ルートヴィヒスハーフェン経済大学では、経済学の専門科目の授業は英語で行われ、ドイツ語の授業はドイツ語で受けていました。専門科目の授業では現地学生も一緒に履修しており、周りの学生のレベルが高いことに驚かされ、最初はそれぞれの授業環境や内容についていくことに必死でした。実際の授業では専門的な内容を扱うことで、授業内のプレゼンテーションを通してチームワークと協同して考える力を身につけることができました。生活面において、現地では私は前期後期ともにシェアフラットに住んでいました。ルームメイトは、前期は10歳上のフィンランド人、後期は同じ年齢のタイ人でした。国も違えば文化も違う、生活スタイルも人それぞれ異なるので、まず相手を理解してどう改善していくかということに本当に考えさせられる日々でした。今回の留学で得た経験を、今後の生活で大いに活かしていきたいと考えています。



青島留学を振り返って

国際商学科3年 孫 怡辰
(福岡県立香住丘高等学校出身)

派遣留学を主たる目的として下関市立大学への進学を決めた私は、可能な限り最も早い段階で中国・青島への留学に臨みました。到着してすぐ出端を挫かれるようなトラブルに見舞われ、次いでルームメイトとの仲違いや足の負傷などが続き辛い時期もありましたが、それも留学の醍醐味と捉え自分の成長の糧にすることが出来ましたし、青島に行ったからこそ出会えた素敵な人々や、その人々と共に過ごした楽しい時間の方がよく印象に残っています。言葉は最初の方こそ意味が通じないのではないかと、話すことに恐れを抱いていましたが、国の違う留学生同士が積極的に中国語で交流している姿や、外国に興味を持ってくれている中国人たちと会話を繰り返す内に、中国語を使う楽しさを見出すようになりました。また、実際にそこで生活して初めて中国ならではの魅力や偉大さ、温かさに触れ、留学に行く前よりずっと中国という国が好きになりましたし、中国をもっと知りたい、学びたいと思うようになりました。今までの人生の中で最も面白く、刺激的で、充実した1年間でした。



新しいことに挑戦する楽しさを学んだ10ヵ月間

国際商学科4年 宮本 彩華
(佐賀県立致遠館高等学校出身)

アメリカのカリフォルニアにあるロス・メダノス・カレッジに10ヵ月間派遣留学生として行きました。大学2年生の夏に参加した語学研修での経験が忘れられず、就職活動を目の前にして、この派遣留学に応募しました。

振り返ってみると、最初は慣れない生活に苦労することも多かったのですが、アメリカでの生活を精一杯楽しむことを目標とし、何事にも挑戦してみました。日本語を教えるボランティア、アメフトなどのイベントにも積極的に参加し、様々な国の友達ができ、日々新たな発見があり、できることが増えて嬉しかったです。

この留学を通して学んだことは、何事にも興味を持ち積極的に取り組んでみることの大切さです。最初は勇気が必要ですが、出来ないと思わずに自分を信じ、今の居心地のよい場所から一歩踏み出して新しいことをする楽しさを学びました。辛いこともありました、周りの人に支えてもらったおかげで、この留学生活を楽しむことが出来ました。この経験を忘れず、これからも新しいことに挑戦していきたいです。



ロンドンでの外国研修を終えて

国際商学科4年 立花 和喜
(山口県立下関工業高等学校出身)

今回の外国研修を終えて改めて海外に行くということの意義について考えました。やはり海外に行くだけで自分の英語力がどうにかなるわけではありません。しかし、英語のアウトプットができる機会は、日本よりもはるかに多いことは事実です。要は、それを活かすか否かが海外での外国研修を有意義なものにするか否かに関わってくると考えています。

私はローズオブヨークという語学学校に2週間通いました。様々な国籍の生徒がいて、もちろん日本語では意思の疎通ができません。今まで自分が培ってきた英語力を円滑に外に出す力が求められました。相手は生徒なので、常に正しい英語で返してくるとは限りません。そもそもイギリス英語とアメリカ英語で使う単語や発音が全く異なったりするのでなかなか上手くコミュニケーションがとれない、なんてことはよくあります。しかし、ここで築けた友情は自分の人生の中でかけがえのない財産になりました。

ロンドンには様々な楽しみ方が存在します。街並みがとても美しく、散歩するだけでも楽しかったです。私は美術や歴史に全く造詣が無かったので、博物館にはあまり行きませんでした。そのかわりカフェやパブにはよく行きました。お洒落な雰囲気の中、世界各国様々な人とビールと共に英会話を楽しみました。



国際交流

台湾での外国研修を終えて

国際商学科2年 鶴飼 茉那
(愛知県立豊丘高等学校出身)

私は9月11日から24日までの約2週間、台湾での外国研修に参加し、銘傳大学で中国語を学びました。台湾は想像していたよりも都会的で、親切に接してくれる人がとても多い国でした。午前中に授業があり、一人一人の発音を確認してもらうことが出来、中国の文化を学びながらの授業であったため、とても楽しかったです。異文化体験として、カンフーなどもしました。

午後は、銘傳大学の学生に案内してもらい、多くの名所を観光しました。現地の人がよく行く食事処に連れて行ってもらうなど、学生との交流はとても楽しかったです。研修の間、天候の影響を受けましたが、現地の学生のおかげで、毎日とても充実した日々を過ごせました。

この研修で、銘傳大学の日本語学科の学生と接し、台湾の学生の語学力の高さ、自分の語学力がまだまだであることを実感したため、これからの大学生活で語学力を高めていきたいです。また、それに伴う豊富な知識も身につけていきたいと思います。この研修に参加して、自分の視野が広がったため、研修に参加して本当によかったです。



2年越しの努力の成果

国際商学科3年 下道 猛
(下関市立下関商業高等学校出身)

私は大学3年生になり、ようやく短期留学(外国研修)をしようと決心をしました。1、2年生の時に決心できなかったのは自分の語学力に自信がなく、行っても何も話せないだろうと考えていたからです。そのため2年間は授業や個人的な学習を積極的に行うことでTOPIK(韓国語能力試験)2級を獲得するなど語学力を養いました。韓国にあまり興味のなかった私が、これまで朝鮮語の勉強を頑張ることができた理由は「大学で朝鮮語を学んだのなら、せめて学んだことをどこかで活かしたい」とずっと考えていたからです。下関市立大学には外国研修という短期留学の制度があり、とてもよかったですと思っています。研修中の2週間は本当にあっという間に過ぎてしまいました。全く面識の無い本学の学生や東義大学校の方々とも友達になりました。言葉を理解することは難しいけれど、日本人ではない人と話すことは、新鮮で楽しいです。1、2年生の時に行っておけば1年間の交換留学も考えられたということが少し心残りですが、今回この外国研修に参加して本当によかったと思います。



～日本にいながら世界を知ろう!!～ ドイツの日常に触れて

国際商学科3年 服部 愛
(広島市立舟入高等学校出身)

ドイツと言えば、ビールやソーセージを思い浮かべる人は多いでしょう。では、ドイツの日常についてはどれくらいご存じでしょうか。

「第2回日本にいながら世界を知ろう!!」では、ドイツの日常や年中行事をテーマに西南学院大学よりミヒャエラ・マンケ教授をお迎えした講演会が行われました。私は、秋学期よりドイツの大学に交換留学することになっており、今回の講演会には司会として参加しました。

講演会では、「皇帝のような朝食を、市民のような昼食を、乞食のような夕食を」という一日三食の基本となる考え方が存在することや、祝日の多くはキリスト教と関連しており中でもクリスマスは盛大に祝われることなどが紹介されました。このように教科書では学ぶことのできない様々なドイツの日常を知り、参加者からの質問コーナーも活気に満ちたものとなりました。

遠く離れた国の日常を聞くことのできる機会はとても貴重だと感じます。今回参加できなかった皆さんもぜひこうした機会を利用して、まだ知らない外国文化に触れてみてはいかがでしょうか。



食の文化交流「世界の厨房から」

国際商学科3年 住野 千依
(山口県立田部高等学校出身)

7月11日(月)に、私たち国際交流会ともだち主催で「世界の厨房から」を開催しました。今年は、中国・韓国・タイ・ベトナム・トルコの5ヶ国6種類の料理を各100食作りました。提供した料理はとても好評で、あっという間になくなってしまいました。試食して下さった皆様に「おいしい」の一言をいただき、私たちにとって、また留学生にとっても貴重な体験になったのではないかと思います。当日に向け、各国の留学生と国際交流会ともだちの部員が話し合いや試食会を重ねた努力が報われました。ステージでは日本舞踊サークルの「さくら会」の方々に演舞していただき、留学生が日本文化に触れ、一生懸命に練習した成果を目の当たりにし、とても感動しました。

今回の「世界の厨房から」では、改めて各国の食文化を知ることができました。今後も留学生との交流や、他国の文化に触れられるようなイベントを開催していきたいと思っています。地域の方々のご参加も心よりお待ちしております。



下関市立大学 News & Topics

2016年度地域インターンシップ活動の紹介

講師 松本 貴文
(附属地域共創センター運営委員)

地域インターンシップ活動では、学生が大学を出て地域の方々と協働するプログラムを提供しています。本年度は、農業・農村体験を通して地域社会の抱える課題を理解し、解決策を提案していくプログラムを3件実施中です。今回は、中でも本年度から開始された、楯原ゆうあい会の支援活動についてご紹介します。

楯原ゆうあい会は、下関市豊田町楯原地区の有志が集まって結成されたまちづくり団体です。名前の通り、都市に出て帰郷したUターン者や、楯原の魅力にひかれて移住してきたIターン者がメンバーの中心を担っています。設立以来、地区の環境整備や歴史文化遺産を活用した交流活動に活発に取り組んで来ましたが、担い手の高齢化やシカ・イノシシによる被害の拡大といった課題にも悩まされています。そこで現在、本学の教員・学生が、防獣ネット張り、山城跡までの歩道整備、民俗調査などの会の活動に参加し、それらの課題解決のための方策を検討中です。年度末には成果報告会も予定しています。その他のプログラムでも、年間を通して充実した内容の活動を提供して行く予定です。



春学期卒業式

9月30日(金)、本館II棟5階大会議室において、平成28年度春学期卒業証書・学位記授与式が挙行されました。今年度は、経済学科5名、国際商学科2名、公共マネジメント学科4名、大学院経済学研究科1名の合計12名が本学を巣立っていきました。学長は告辞の中で、「大学で学んだことは通過点における一つの評価に過ぎず、それを活かせるかはこれからの皆さんの心の持ちようや努力次第であります。先生や職員の方々との交流の中で得られた言葉の中で、心の持ちよりの核となる言葉をただ一つだけでよいので皆さん方の心に刻みつけ、この大学を巣立っていただきたい」と述べられました。

全国各地あるいは世界で活躍する皆さんを、本学から応援しています。



同窓会より長流旗が贈呈されました

7月15日(金)、理事長室において、本学のシンボルマークと名称が刺繍された長流旗が、本学同窓会より贈呈されました。この長流旗は本学の創立60周年を記念し国旗及び校旗とともに贈呈されたものです。入学式や卒業式、その他記念行事に活用させていただきます。



ラーニング・コモンズの設置

学術センター1階に能動的な学習を行うための場所として新たに『ラーニング・コモンズ』を設置しました。学習室のあった場所は、アクティブ・ラーニングスタジオとして整備し、グループでの議論や発表練習などに使えます。各自パソコン等を持ち込んでモニターに接続して利用することもできます。

学生の皆さんは、ルールを守って、積極的に利用してください。



私のゼミ

連載企画

憲法の本質を考える多様な研究

国際商学科3年 稲葉 美由紀
国際商学科3年 金子 紗友美

私たちの所属する山本ゼミでは、文献講読を通して憲法についての基礎知識や様々な見解などを学んでいます。各自で文献を読み、その内容を要約し、疑問に思った点などをまとめてゼミ内で発表をします。文献を選ぶ際は、山本先生に何冊かの文献を候補に挙げていただいて、その中から興味のある文献を選びます。例えば、2016年度春学期は、私たちは、内山奈月氏・南野森氏著『憲法主義』という文献を選びました。この文献は、立憲主義の定義や歴史、日本での憲法の位置づけなどが身近な例を用いて分かりやすく書かれています。同じ文献を読んでも、要約でピックアップする部分や疑問に思う点、わからない点などが人によって違うので、なるほどと思うことが多々あります。各々の疑問点などに先生が丁寧に解説をしてくださるので、より理解を深めることができました。また、文献講読のレジュメ作成に際しては、基本的な知識もご指導いただきました。

今年度開講したばかりのゼミなのでゼミ生もまだ少ないです。その分、ゼミの内容については、先生が各人のやりたいことなどを踏まえて柔軟に対応してくださっています。



下関市立大学 News & Topics

大学祭を終えて

第55回大学祭実行委員会委員長 経済学科3年 篠原 大空
(栃木県立宇都宮北高等学校出身)

まず最初に第55回馬関祭を開催できましたことを、協賛いただいた企業、団体の皆様、日頃よりご指導を賜った教職員の皆様、そして、地域の皆様へ感謝申し上げます。大学祭実行委員会一同大変嬉しく、また、感謝の念でいっぱいです。馬関祭の成功は、多くの方々のご理解とご協力なしには成し得なかったと感じています。

今年の馬関祭は10月8日から10月10日の期間で開催しました。初日は途中から雨が降り出しステージ企画はB講義棟の中で行うというハプニングに見舞われましたが、2日目以降は天候にも恵まれたくさんのお客様にお越しいただきました。

新企画であるハロウィンナイトは小学校への事前PRが功を奏し、例年では考えられないほどの小学生に足を運んでもらいました。幹部委員の2人はその光景を見て嬉し涙を流したほどです。当日までは不安で押しつぶされそうでしたが、本当に嬉しかったです。繰り返しますが、ご支援いただきました皆様には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



名誉教授称号授与式を行いました

6月16日(木)、本館II棟大会議室において、本学名誉教授称号授与式を行い、本年3月31日付で退職された道盛誠一氏及び木村健二氏に、名誉教授の称号が授与されました。出席された木村名誉教授からは、「何事にも余裕が大切、余裕がないと良い研究ができない。これからも研究活動に邁進していきたい。」とのお言葉がありました。

防災訓練の実施について

9月21日(水)に、学生、教職員及び地域住民の約200名が参加し、防災訓練を実施しました。大学町自治連合会及び大学町地区社会福祉協議会との防災協定に基づき、今年度は新たな取り組みとして、地域住民からの避難要請に対する避難所開設及び避難者受け入れの訓練も行いました。北消防署署員からは、事情により避難に時間がかかる方は、避難準備情報が発令されたら、早めに避難行動を起こすよう指導がありました。



自著を語る

連載企画

貨幣考古学の世界

教授 櫻木 晋一

2016年5月に『貨幣考古学の世界』(ニューサイエンス社)を上梓しました。この本は、発掘調査で出土することがある寛永通宝などの貨幣について、便利で分かりやすいハンドブックとして発掘担当者が利用できるように考えて執筆したものです。出土貨幣は経済学や歴史学、民俗学、文化財科学など諸学問に関する様々な情報を含んでいる遺物なので、研究に活用できるよう、可能な限り資料化することが重要です。中世の日本では貨幣を作っておらず、中国・朝鮮・ベトナムで発行された銭貨も出土するので、これらの銭貨も含め実物大の拓本を巻頭に示し、貨幣に学問的興味をもっている一般の人々にとっても勉強するための入門書となるように配慮しました。

「貨幣考古学」という用語は私が主唱している学問分野で、これをタイトルにつけることによって、この分野の確立を目指した専門的な本でもあります。身近に存在する貨幣がとりわけ歴史資料となると、貨幣考古学の世界が多様で、かつ奥深いものであることをわかっていただければ幸いです。



自著を語る

連載企画

モンゴルのナショナル・ヒストリーの起源

准教授 橘 誠

この度刊行した『モンゴル国の古来伝承を略記した書』(編者:アルタンザヤ、橘)は、モンゴルのナショナル・ヒストリーの基礎を築いた文献の一つです。Ch.バトオチルという人物により執筆された本書は、1928年にモンゴル文字により刊行されましたが、長らく注目されることはありませんでした。編者らはその重要性を再発見し、本文をキリル文字に転写した上で注を付し、1928年刊行本のファクシミリ版、さらにはバトオチルの手書き原稿の一部も合わせて刊行いたしました。

本書には、古代の遊牧民族から18世紀に至るまでのモンゴル国の通史が描かれておりますが、その特徴は『資治通鑑綱目』などの漢語史書の満洲語訳を利用している点にあります。そのため、史上の人名・地名・国名などが全て漢字をモンゴル語に音訳した形で記されており、これら固有名詞を比定するのは極めて困難なものとなっております。再版にあたっては、それらの漢字を可能な限り復元し、読みやすいものにしました。

ナショナル・ヒストリーは、その国の時間的・空間的枠組みを規定し、さらには国民のアイデンティティ形成にも大きな役割を果たします。本書が今後広く利用されることを願っております。



■平成28年度 春季大会等成績

サークル名	イベント名	所属・出場種目	結果	個人名
軟式野球部	平成28年度西日本地区学生軟式野球春季リーグ戦 第39回全日本学生軟式野球選手権大会	1部	準優勝(全国大会出場権獲得) 2回戦敗退(ベスト8)	
ハンドボール部	中四国秋季ハンドボールリーグ	3部	優勝	最優秀選手賞(坂田 憲彰)
男子バレーボール部	2016年度中国バレーボールリーグ戦春季大会	3部	準優勝(2部昇格)	
卓球部	中国学生卓球選手権春季大会	男子団体3部リーグ	1位(2部昇格)	
	中国学生卓球選手権春季大会	女子団体3部リーグ	2位(2部昇格)	
少林寺拳法部	第51回記念少林寺拳法中四国大会 第44回山口県少林寺拳法大会	組演武女子初段の部 単独演武男子有段の部 単独演武男子有段の部 単独演武男子級拳士の部 単独演武女子級拳士の部 組演武一般男子二段以上の部 組演武一般男子初段の部 組演武一般女子初段の部 組演武一般男子級拳士の部	1位 最優秀賞 優秀賞(全国大会出場権獲得) 最優秀賞(全国大会出場権獲得) 最優秀賞(全国大会出場権獲得) 最優秀賞(全国大会出場権獲得) 最優秀賞(全国大会出場権獲得) 最優秀賞(全国大会出場権獲得) 最優秀賞(全国大会出場権獲得) 最優秀賞(全国大会出場権獲得)	疋田 梨緒・日隈 香菜絵 北野 仁 河内 良太 岡本 卓巳 田中 真奈美 川原 功介・伊藤 大介 山口 太一朗・大鶴 貴樹 麻生 紗希・森脇 千夏 井倉 麟太郎・大塚 拓弥
弓道部	第64回全日本学生弓道選手権大会	個人決勝出場	全国大会出場	檀之上 由梨・瀧 碧衣・谷川 博基
陸上競技部	第63回北九州・下関地区大学体育大会陸上競技大会 第63回北九州・下関地区大学体育大会陸上競技大会 第63回北九州・下関地区大学体育大会陸上競技大会	400mリレー 三段跳び 砲丸投げ	1位 1位 1位	徳島 真幸・高木 琢也・西村 瀨那・石川 順典 徳留 悠己 内藤 大輝
水泳部	第39回全国JOC夏季県予選会 第47回中国四国学生選手権水泳競技大会 兼 第46回中国四国国立大学選手権水泳競技大会 第63回全国国立大学水泳選手権大会	400m自由形 200m自由形 400m自由形 50m自由形・200m自由形	1位 3位(全国大会出場権獲得) 2位 全国大会出場	植木 奈那子 植木 奈那子 植木 奈那子 植木 奈那子

■行事記録(平成28年7月～10月)

7月6日	第3回共創サロン	9日	大学院入試(一次選抜)合格発表
7日	ハラスメント防止啓発講習会(学生対象) (アカデミックリテラシー合同講義)	17日	保護者懇談会
11日	世界の厨房から	21日	防災訓練
14日	共同自主研究発表会	23日	秋学期履修登録開始
15日	大学院修士論文提出日	26日	秋学期授業開始
21日	ハラスメント防止啓発講習会(役員・教職員対象)	30日	春学期卒業式
24日	大学コンソーシアム関門留学生交流会バスツアー	10月 2日	オープンキャンパス
27日	第4回共創サロン	3日	健康診断(～4日)
28日	FDワークショップ	8日	大学祭(～10日)
29日	大学院修士論文発表会・中間発表会 補講日	11日	大学祭片付け(全学休講) クリーンキャンパスデー
8月 1日	春学期定期試験(～5日)	13日	FDフォーラム
6日	オープンキャンパス(～7日)	24日	履修登録取消期間(～28日)
19日	春学期卒業論文提出日 共同自主研究報告書提出日	26日	後期授業料納入期限
9月 3日	大学院入試(一次募集)	27日	下関市立大学弁論大会(日本語スピーチコンテスト)
5日	大学コンソーシアム関門共同授業(本学開講分)(～9日)	31日	大学院修士論文題目申告締切

■今年度の入試スケジュール

【推薦入学・特別選抜・第3年次編入学】

- ◎試験日：平成28年11月19日(土)
- ◎出願期間：(推薦・特別)平成28年11月1日(火)～11月8日(火)
(編入学)平成28年10月20日(木)～10月27日(木)

【外国人留学生】

- ◎試験日：平成28年12月17日(土)
- ◎出願期間：平成28年11月24日(木)～12月2日(金)

【一般選抜(前期日程)】

- ◎試験日：平成29年2月25日(土)
- ◎出願期間：平成29年1月23日(月)～2月1日(水)

【一般選抜(公立大学中期日程)】

- ◎試験日：平成29年3月8日(水)
- ◎出願期間：平成29年1月23日(月)～2月1日(水)

＜お知らせ＞

一般選抜では、地方試験会場を多数設定しています。前期日程では下関・大阪・広島・福岡、公立大学中期日程では下関・名古屋・大阪・広島・高松・福岡・鹿児島で受験することができます。詳しくは、募集要項をご覧ください。

名古屋試験会場のご案内

昨年的一般選抜・中期日程において、東海地区では初めてとなる「名古屋試験会場」を増設しました。

【試験会場】ウインクあいち(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

【アクセス】JR・地下鉄・名鉄・近鉄「名古屋駅」より徒歩5分

市民大学 テーマ講座 「地方創生時代の 海峡のまちづくり」受講者募集

地方創生の取り組みとして、地域の特色を活かしたまちづくりが求められています。今回は、下関の都市的特徴の一つである「海峡」に着目し、全国各地の海峡地域の方々をお招きして、海峡のまちづくりについて議論を行います。

- 平成28年11月26日(土)13:30～16:00
- 下関市立大学 本館 I-206教室(下関市大学町二丁目1番1号)

5大学連携 「赤間関」公開講座開講

下関に和同開珎を造っていた造幣局があったことは有名な史実です。長府覚苑寺近辺にあったこの造幣局における和同開珎の製造技術や古代の貨幣流通の実態についてお話しします。

◎演題：下関の古代造幣局

◎講師：櫻木 晋一(下関市立大学経済学部教授)

- 平成28年12月3日(土)13:30～15:00
- 下関市立大学 本館 I-201教室(下関市大学町二丁目1番1号)
- 後援：下関市・下関市教育委員会